



# ほいくしつだより 2024年11.12月

社会福祉法人ピスティスの会 小規模保育室

2024年度主題 さあ、漕ぎだそう 奏でよう

12月に入り、各保育室では子どもたちと共にアドヴェント礼拝を守ってきました。アドヴェントとは、神の御子である主イエスキリストの誕生を待ち望む期間のことです。保育者がさんぴかを歌い始めると身体を左右に揺らし、キャンドルに火が灯ると、子どもたちはじっと火を見つめています。ある礼拝の日、マリアさんや羊飼いで3人の博士のお話を聞くと、保育室で読んでいる『クリスマスってなあに』の絵本を手に取り持ってきてくれました。「おなじだね」「イエス様おめでとうだね。」と言っていた子どもの姿があり、小さいながらも本当のクリスマスの意味が少しでも伝わっているのではないかと思えた瞬間でした。

「見えないものに目を注ぐ」という言葉がありますが、目に見える成長の姿だけでなく、目に見えない心の成長も大切にしていきたいですね。

今年も保護者の皆様のご理解とご協力に心より感謝申し上げます。年末年始を健やかにお過ごしください。



礼拝の様子



## 11月の聖句

「あふれるばかりに感謝しなさい。」

コロサイの信徒への手紙2章7節

## 12月の聖句

「今日ダビデのまちで、あなたがたのために救い主がお生まれになった。」

この方こそ主メシアである。」

ルカによる福音書2章11節

## 保育室で迎えるクリスマス

机の上にヒバを置くと「これなに？大根？」と近くによりながら匂いをかいだり顔にあてて「チクチクする」と興味を示していました。

保育者が「これはヒバだよ。これからみんなで飾りをつけていこうね。」とリース作りが始まります。

サンキライや松ぼっくりをどこに付けるかを皆で考えながら、オリジナルのリースが完成しました。作っている最中はずっと『おほしがひかる』を歌っていた子どもたちです。

(へいわこぼと保育室)



日々のアドヴェント礼拝やさんぴかを通して、子どもたちの会話の中で、「イエスさまの絵本見よう！」「マリアさんからイエスさまが生まれたね。」など、「イエスさま」という言葉がよく聞こえてくるようになりました。子どもの心の中に自然と“イエスさま”という存在がいることに感動しました。子どもならではの視点から、クリスマスを共に楽しむことが嬉しいです。

(へいわかしの木保育室)

第一アドヴェント、第二、第三と礼拝を守っていく中で、クリブが増えていくことに気がついたようです。子どもたちから「これはマリアさん？」「イエス様はどこ？」「赤ちゃんが寝ているよ」「宝物ってなに？」と保育者に聞きながら大切そうにじっと見えています。

クリスマスツリーの飾りつけでは、「ちょうだい」とオーナメントを手を持ち、ツリーの飾りつけを楽しみます。飾りつけを終わりにしたくなくて一つのオーナメントを何度も付けたり外したりする姿がありました。子どもたちの自然な姿を大切にしながら過ごしていきたいと思っています。

(へいわみのり保育室)

